

平成29年度
総会記念
講演会

「当院のがん治療の現状について」

講師 岩永 一郎 医師

平成29年3月7日、北見赤十字病院・大会議室(北館3階)で平成29年度総会記念講演会を開催。日本人・2人に1人がかかり、3人に1人が命を落とすと云われている「がん」。また世間では多くの玉石混合の情報があふれ、一層、私たちが不安の渦に巻き込んでいきます。

そこで、先ほど終了した当会総会の2部として「がん」をテーマに講演会を開催します。本講演は北見赤十字病院の岩永医師のご協力で実現しました。

私の経歴

私の経歴を少し詳しく話します。10年前に北海道大学病院の第3内科に、大腸がんや胃が

ん、食道がんなどの新しいがん種の抗がん剤の治療法を開発するグループがあり、そこで4年間、抗がん剤の勉強をして、平成22年からこちらの病院で勤務しています。

腫瘍内科とは

平成25年、薬物療法専門医という抗がん剤治療の専門医の資格を取らせていただき、腫瘍内科に移行して今に至っています。

腫瘍内科は抗がん剤治療を専門に行う内科です。基本的には内視鏡や気管支鏡をしたり、患者さんのがんの進行度の診断とか、手術を行ったりするのではなく、内科的な治療が適している

発病の原因

と判断されると、各科から紹介され、治療するのが専門腫瘍内科です。現在、薬物療法専門医は北海道に51名います。オホーツク圏内では私一人です。

人間の体は受精卵から細胞分裂を繰り返しながら、どんどんいろいろな組織を作っていく、一つの体を作っています。最終的には60兆個まで細胞が増えるといわれています。

がんは細胞の設計図である遺伝子の異常で出てきます。発生してからがんの症状が現れるまでには10年以上かかることが多く、小さな豆粒ほどのものやもつ

と小さながんが1cm位になるまでに10年ほどかかるといわれています。また3cmぐらいになるとがんの症状が出てくる場合があります。

肝臓はもともと大きな臓器ですから、そこにがんが出来ても10cmぐらいにならないければ分からず、ひどい人は15cm位にならないと気づかない人が中にはいます。だから沈黙の臓器と言われています。

がん治療のあらまし

がん治療は、手術、放射線治療、抗がん剤治療など病気の広がりに対して、もっとも有効な組み合わせを考えます。今はガイドラインというのがあります



取り切ることのできる範囲ある切除が可能ながんに対する最も確実な治療は手術になります。ただし、切除をすることで元の臓器はなくなってしまうので、胃がんに対して胃を切除した場合は、食事をとれる量は減ってしまいます。

放射線治療

がんの病巣部に放射線をあてて、がん細胞を死滅させる。利点は圧倒的に手術に比べて侵襲(ダメージ)が少なく、臓器温存が可能になります。例えば前立腺がん

で、男性の場合よく聞くと思うんですが、前立腺の手術は出血して大変だと聞きました。(僕はやったことはありませんが)すごい大変な臓器なんです。そこに放射線の治療をすることによってがんを死滅させる

抗がん剤治療

これが私の専門分野です。がん細胞を死滅させたり増殖を抑えたりする治療方法で、薬を使って治療します。利点は手術や放射線治療と違って、CTでも見えないような小さいながんでも、血液の中に抗がん剤を入れて治療すると、一度にいろんなところにある病気を攻撃してくれます。

ここがすごく大事なんですが国が承認してくれば、日本中どこでも同じ治療を受けることが出来ます。例えば国立がんセンターという病院でも、うちの病院でも(3面につづく)

がんに対する
手術療法